

令和3年度
事業報告書



目 次

重点事業報告について	1
Ⅰ 法人運営部門	
1.法人運営事業	2
Ⅱ 事業部門	
1. 在宅福祉・地域福祉事業	3
2. 地域ボランティア活動の充実・福祉教育の推進	8
3. 生活支援体制整備事業	10
4. 福祉活動を支えるための取り組み	12
5. 社会福祉協議会活動普及の取り組み	15
6. 職員体制及び職員研修	16
Ⅲ 経営部門	
1. 介護サービス事業(介護保険法)	20
2. 障がい福祉サービス事業(障害者総合支援法)	28
3. その他の特記事項	30

令和3年度 社会福祉法人埴町社会福祉協議会 事業報告書

重点事業報告について

新型コロナウイルス感染拡大が現在も続く中、引き続き「住民が地域で暮らすことの実現」に向け、「住民とともに進める福祉」を目指して、コロナ禍でもできる内容に少しずつ切り替え感染対策を取りながら事業に取り組んでまいりました。

また「地域共生社会の実現」を目指し、地域福祉活動計画を基に、住民の方々と一緒に福祉課題の解決に向け取り組んでいくため、住民の方々との災害対策のための研修会を行いました。

生活支援体制整備事業では、地域での助け合いの様子を発表していただきながら、地域づくりに参加する人材を育て、担い手の輪を広げ、そして住民主体の取組みにつなげるためのセミナーを開催いたしました。

財政基盤安定に向けた社協会費等自主財源の確保については、会員加入の促進と会費募集を行い、令和2年度9社だった賛助会員については、令和3年度は21社の加入がありました。

日常生活自立支援事業においては、様々な障がいにより判断能力が不十分な方が安心して生活を送ることができるよう金銭管理等の援助を行っておりますが、相談や契約をする方が年々増加している状況です。背景には、人と人とのつながりの希薄化がすすみ、社会的孤立や経済的困窮等により困りごとや生きづらさを抱えている人の増加があると思われます。

経営活動は、介護保険制度による5つの事業所と障害者総合支援法による1事業所の、合わせて6事業所を運営し、コロナ対策を徹底的に行いながら、感染者を出さないよう努めてまいりました。最適なサービスを利用者に提供すべく、利用者とその家族の意向に添ったより良いサービスの提供に努めてまいりました。

引続き業務支援コンサルティングを導入し、経営基盤の強化と安定化を図るため、経営理念と行動指針の策定を行い、社協全体で目指すべき方向を明確にしました。またコミュニケーションの円滑化につながるような制度構築のため、コミュニケーションシートの作成や管理者研修も行ってまいりました。

I 法人運営部門

1. 法人運営事業

社会福祉協議会は、民間での社会福祉活動の推進を目的として、社会福祉法に基づいて設置される非営利の民間組織です。

皆様からの社会福祉協議会会費や町からの補助金及び募金配分金等が財源となり、様々な場面で地域福祉の増進に取り組んでいます。

埴町社会福祉協議会では、この福祉活動を法人運営事業と位置づけ、経営活動と区分しています。

地域福祉の担い手としてふさわしい事業を地域住民とともに推進するため、理事会を中心として事業の健全経営や透明性の確保を図りました。

- 理事会 年5回開催
- 評議員会 年2回開催
- 監査 年2回
- 職員会議 年12回開催

令和3年度も業務支援コンサルティングの導入を継続し、基本理念と行動指針の策定とコミュニケーションシートの作成を行いました。

- 委 託 先 あおば社会保険労務士法人
- 基本理念 「あなたが“あなたらしく” いるために」
- 行動指針 ①寄り添い、共に考える
②一人ひとりの価値観や違いの尊重
③生きる喜びを大切に
④安心の提供

■コミュニケーションシートの作成

職員間のコミュニケーション不足による弊害をなくすこと、またハラスメント防止を目的にシートを作成し、今後コミュニケーションの円滑化につながるような制度構築を行ってまいります。

■管理者研修 年8回実施（リモートによる）

管理者としての心得や部下指導について、理解を深めました。

※なお、基本理念と行動指針、コミュニケーションシートの活用については、令和4年度から実行してまいります。

Ⅱ 事業部門

1. 在宅福祉・地域福祉事業

【1】地域福祉活動推進事業（町受託事業）

今年度経費 917,513 円
前年度経費 905,463 円

住民により近い視点から、民間としての特性を生かしつつ、きめ細かな地域福祉活動の推進を目指しました。

■福祉バス維持管理

各種福祉事業及び福祉団体に対する活動を支援

運行回数	2回	(前年度 2回)
延乗車人員	18人	(前年度 23人)

■百歳賀寿事業

百歳の高齢者に対し記念品を贈呈し、その長寿を祝い、高齢者の健康増進に努める意欲を高める

贈呈者	4名	(前年度 4名)
-----	----	----------

■法外扶助費支給事業

移動費を持たない行旅人等に対し、次の市町村までの運賃相当額となる 500 円を支給

利用人数	1人	(前年度 1人)
------	----	----------

■福祉用具等貸出事業

車椅子やニュースポーツセットを無料で貸し出すことで地域福祉の推進に貢献
カーリンコンやボッチャなどが回数が増加

(備品)

貸出品目	回数
車椅子	9回
テント	0回
テントおもり	0回

(ニュースポーツセット)

貸出品目	回数
カーリンコン	15回
公式輪投げ	6回
スカットボール	9回
トリコロキューブ	1回
ストライクナイン	5回
ガラッキー	1回
クオリティ	2回
ボッチャ	39回
グランドゴルフ	4回

【2】一般募金配分金事業

今年度経費 1,162,030 円
前年度経費 1,306,255 円

埴町社会福祉協議会で取り扱った赤い羽根共同募金の一部が翌年福島県共同募金会より配分され、その配分金が財源となる事業

■ひとり暮らし高齢者交流事業

交流が偏りがちなひとり暮らし高齢者の方に、様々な方との交流を促すと共に、温泉入浴やカラオケ、会食等楽しんでいただくことを目的に毎年開催しておりましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、集合型の交流ができなため、3年度は町内児童の絵手紙を添えたマスクを町内ひとり暮らし高齢者（345世帯）へ配布しました。児童からのメッセージには「コロナに負けないで!」や「長生きしてください」など励ましや体調を気づかうものがたくさんありました。ひとり暮らし高齢者からは「手書きがうれしいです」、「励まされました」など感想などお話をいただきました。

■寝たきり高齢者介護世帯慰問事業

寝たきり高齢者等の激励と、日常的に介護を行っている家族介護者のご労苦を慰労し応援の気持ちを含めて、そのご家庭を訪問して慰問品を贈呈しました。

対象	13世帯	(前年度 11世帯)
内容	現金 5,000円	(前年度 現金 5,000円)
実施日	令和3年 11月	

■ひとり親世帯入進学祝品贈呈事業

ひとり親世帯の小・中学生及び高校生の入進学に際し、祝金を贈呈しました。

対象	88世帯(131人)	(前年度 85世帯(129人))
内容	現金 5,000円	(前年度 現金 5,000円)

■福祉団体助成事業

町内の福祉団体や福祉事業所の活動を助成しました。

団体名	助成額
埴町老人クラブ連合会	90,000円
埴町心身障がい児者親の会	50,000円
埴町身体障がい者福社会	40,000円
埴町赤十字奉仕団	40,000円
ウッドピアはなわ	30,000円
ダリア工房	40,000円
計	290,000円

【3】歳末たすけあい配分金事業今年度経費 730,150 円
前年度経費 739,618 円

福島県共同募金会から配分される歳末たすけあい配分金による事業

■歳末たすけあい慰問事業

新たな年を迎える時期に、ひとり暮らし・寝たきり高齢者、高齢者世帯、ひとり親世帯、障がい者及び生活困窮者等の支援を必要とする人たちが、地域で安心して暮らすことができるよう、少しでも豊かな心持ちで新年を迎えることができることを祈念して慰問品を贈りました。

令和3年度も埴町共同募金委員会運営委員会を開催し、配分方法について協議を行いました。また事業の実施については、民生児童委員にたくさんの協力をいただきました。

対 象	98 世帯	(前年度 118 世帯)
内 容	現金 8,000 円	(前年度 現金 6,200 円)

【4】心配ごと相談事業（町受託事業）

今年度経費 809,240 円
前年度経費 863,637 円

相談所を定期に開催し、日常生活上の様々な悩み事や困り事の相談に応じる事業
月1回、弁護士相談日を設け、法律の専門家による対応を行いました。

	一般相談	弁護士相談
開設日時	月曜日[休日を除く] 10時～15時	第2月曜日[休日の際は翌週] 13時～15時
相談体制	相談員 2名	弁護士 1名
開設場所	埴農村勤労福祉会館小会議室 ※変更の場合はあらかじめ周知	
その他	相談料無料、秘密厳守、相談員 6名 各回 男性1名、女性1名	
開設回数	40回 (前年度43回)	11回 (前年度12回)
相談件数	13件 (前年度18件)	40件 (前年度51件)
主な内容	借金問題 11件 相続関係 6件 土地住宅関係 5件 契約関係 4件	

【5】権利擁護事業（県社協受託事業）

今年度経費 797,750 円
前年度経費 558,775 円

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者のうち判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用や生活に必要なお金の出し入れ等公的な制度で支援する。

■あんしんサポート事業(日常生活自立支援事業)

判断能力が低下した利用者へのニーズに応え、福祉サービス利用手続きと日常の金銭取扱に関する支援(令和4年3月31日現在)

利用者	14人	(前年度11人)
利用回数	229回	(前年度160回)

【 6 】 生活援護事業今年度経費 375,133 円
前年度経費 390,768 円**■生活福祉資金貸付事業（県社協委託事業）**

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯等の世帯を単位に、それぞれの世帯の状況と必要に合わせた資金（総合支援資金、福祉資金、教育支援資金、不動産担保型生活資金）の貸付けを行う事業

福島県社会福祉協議会が実施主体で、塙町社会福祉協議会が窓口を担当

令和3年度も引続き新型コロナウイルス感染症対策のための特例貸付である、緊急小口資金貸付の相談を受け付けました。

新規利用	14 件	(前年度 31 件)
利用相談	35 件	(前年度 68 件)

■生活援護資金貸付事業

一時的に生活資金などでお困りの方を対象に、その世帯の生活の安定と助長促進を図ることを目的に資金の貸付けを行う事業

貸付限度額は 50,000 円で無利子ですが、連帯保証人が必要となり、償還は2年以内が条件

新規利用	8 件	(前年度 18 件)
利用相談	11 件	(前年度 21 件)

2. 地域ボランティア活動の充実・福祉教育の推進

【1】ボランティアセンター事業（町受託事業）

今年度経費 393,662 円
前年度経費 325,700 円

住民が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めるために、支え合い活動をベースにしたボランティア活動を行いました。

また、ボランティアの育成や活動の相談、登録受付、活動支援、連絡調整、情報発信及び啓発活動等様々な取り組みを行いました。

■ボランティア登録

個人	19人	(前年度 19人)
団体	6団体	(前年度 6団体)

■傾聴ボランティア（みみネットはなわ）

傾聴ボランティアとは、人とお話をする機会が少なかったり、話し相手が限定されがちな高齢者の話し相手となり、嘆きや悩みを「きちんと聴く」ことによって相手の心の不安を軽減し、その人なりの判断や納得を促すというものです。

「みみネットはなわ」を組織し、月に1回1時間程度の訪問活動を2人1組で行いました。また、今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、IP電話による電話傾聴も行いました。

訪問傾聴

利用者	15人	(前年度 14人)
利用回数	98回	(前年度 97回)

電話傾聴

利用者	6人
利用回数	12回

～みみネットはなわ活動状況～

活動登録者	14人
定例会	5回(隔月開催)

傾聴ボランティア研修

実施日	令和3年8月30日(月)	場所	埴町防災センター 3階会議室
参加者	10名		
内容	「傾聴とは」 講師:会津大学短期大学部 幼児教育学科 准教授 木村淳也 氏		

■ボランティアステップアップ研修(郡内4町村社協合同事業)

新型コロナウイルス感染症対策のため中止

■サマーショートボランティアスクール(郡内4町村社協合同事業)

新型コロナウイルス感染症対策のため中止

■福祉教育(埜町出前講座)

福祉教育に関する町内学校からの講師派遣要請が埜町出前講座に届き、同講座からの講師派遣要請により社協職員が学校に出向き、講師を担いました。

【第1回】

対 象	笹原小学校4年生	参加者	20名
実施日	令和3年7月6日(火)	場 所	笹原小学校
内 容	高齢者疑似体験		

【第2回】

対 象	笹原小学校4年生	参加者	20名
実施日	令和3年12月10日(金)	場 所	笹原小学校
内 容	「ふくし」ってな～に？(ふくし、しょうがい、バリアフリー、ユニバーサルデザインについて)		

【第3回】

対 象	修明高等学校1～3年生	参加者	15名
実施日	令和3年7月30日(金)	場 所	棚倉町立図書館
内 容	高齢者疑似体験、ニュースポーツ体験		

■シニア男性講座(埜の“おやじ塾”)

男性ボランティア増加、ネットワーク作りのため50歳以上の男性を対象に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、活動ができませんでした。

【第1回】

実施日	令和3年4月7日(水)	場 所	埜町公民館
参加者	8名	内 容	今後の活動について

■ボランティアの活動環境整備

地域住民にとって身近な存在として機能し、ボランティアが活動しやすい環境を整え、あらゆる住民が参画できるプラットフォームの提供を行いました。

【サロン支援】

内 容	すまいるサロン(板庭)、常豊いきいきサロンの支援 各サロン 月1回支援
-----	--

■災害ボランティア

災害ボランティアに関する環境整備や、町民の方に災害に対して意識を高めてもらう目的で行う研修会の開催などを行っていく事業です。

令和3年度は災害ボランティア研修会を開催し「災害時に求められる地域の力」について理解を深めました。

【災害ボランティア研修会の内容】

実施日	令和3年10月17日(日)	場所	埴町公民館 大研修室
参加者	52名		
内容	【講義①】 「いざ災害、その時わたしたちは」～地域が支える・地域を支える～ ・私たちが災害時に備えて普段の暮らしの中でもできることを、一緒に考える。 講師:NPO 法人にいがた災害ボランティアネットワーク理事長 李仁鉄氏		

3. 生活支援体制整備事業（町受託事業）

今年度経費 2,000,937円
前年度経費 2,000,000円

日常生活において支援が必要な高齢者等の方々が、住み慣れた地域で生きがいをもって在宅生活が継続できるように、「介護予防」「社会参加」を重視しながら、住民の方が主体となって取り組む助け合い・支えあい活動を推進していく事業

地域の中で多様なサービスが提供できるよう、住民と一緒に考えながら、ボランティア等の担い手や地域資源の発掘、関係機関のネットワーク作りを行っていく事業

【1】生活支援コーディネーターの配置

町からの委託により、高齢者等の生活支援サービスの体制整備を推進するため資源開発やネットワーク構築の機能を果たすことを目的に配置しています。

■生活支援コーディネーター情報交換会・研修会

開催日	令和3年6月30日(水)	場所 内容	オンラインサロン:ZOOM
	令和3年7月08日(木)		生活支援コーディネーター研修:動画
	令和3年7月19日(月)		情報交換会:ZOOM
	令和3年7月28日(水)		郡SC情報交換:防災センター
	令和3年9月09日(木)		大阪市SCとの意見交換:ZOOM
	令和3年9月10日(金)		生活支援コーディネーター養成研修①:ZOOM
	令和3年9月22日(水)		生活支援コーディネーター養成研修②:ZOOM
	令和3年10月12日(火)		生活支援コーディネーターカフェ:ZOOM

	令和3年11月22日(月)		県南地区生活支援コーディネーター情報交換: ZOOM
	令和4年2月09日(木)		生活支援コーディネーター研究協議会:ZOOM
	令和4年3月18日(金)		生活支援コーディネーターカフェ:ZOOM

■協議体「笑顔つなげる会」会議

会議開催数	6回
-------	----

■助け合い活動の創出(エールはなわ)

1)お手伝いサービス事業

協力会員登録者数	45人(男性8人、女性37人)
利用会員登録者数	46人(60代3人、70代11人、80代24人、90代8人)
活動件数	192件
活動内容	(多い順に) 買い物代行、ゴミ出し、掃除、草むしり など

2)先進地視察

開催日	令和3年10月28日(木)	場所	NPO 法人ちりんこ
内容	社協職員1名による、生活支援コーディネーター現地視察		

■エールはなわの普及活動

開催日	令和3年4月07日(水)	場 所 内 容	エールはなわの説明 介護予防ボランティア連絡会議にて
	令和3年4月26日(月)		エールはなわの説明 塙厚生病院連携室にて
	令和3年7月27日(火)		エールはなわの途中経過報告 介護予防ボランティア連絡会議にて
	令和3年9月01日(水)～ 02日(木)		ポスターセッション投稿 いきがい助け合いサミットIN 神奈川にて
	令和3年11月25日(木)		社協や福祉、エールはなわの説明 塙工業高校生に870 クリエイタープロジェクトにて
	令和3年11月28日(日)		エールはなわの説明(講師依頼による) 中島村生活支援体制整備事業協議体へ
	令和4年3月16日(水)		エールはなわの実績報告 地域ケア会議にて

■エールはなわ交流会

開催日	令和3年11月26日(金)	場所	埴農村勤労福祉会館 大研修室
内容	経過報告、グループワーク（参加者:35名）		

■地域共生社会づくり推進セミナー

地域での支え合いの様子を発表していただきながら、地域づくりに参加する人材の育成と住民主体の取組みにつなげていくことを目的にセミナーを開催しました。

【地域共生社会づくりセミナーの内容】

実施日	令和3年10月13日(水)	場所	埴町公民館 大研修室
参加者	85名		
内容	「地域で高めよう、近所のチカラ～そだてる・ひろげる・つなげる～」 【第1部】活動発表(プレミアムGクラブ、エールはなわ、サロンの活動発表) 【第2部】レクリエーション		

4. 福祉活動を支えるための取り組み

【1】社会福祉協議会の会員及び会費の募集

全戸加入を目標として行政区長の協力をいただきながら会費の納入とりまとめを行うなど会員の確保に努めました。

また、賛助会員の加入促進も行いました。

一般会員会費納入額	1,014,500 円 (2,031 世帯)	(前年度 1,024,000 円(2,052 世帯))
特別会員会費納入額	10,000 円 (6名)	(前年度 30,000 円(14 名))
賛助会員会費	471,000 円 (21社)	(前年度 45,000 円(9社))

【2】日本赤十字社社員及び社費の募集

国内の大規模災害や世界各地の自然災害での被災者および難民を支援するため、日赤事業の推進のため社費募集チラシ配布、奉仕団員の地域訪問により社費募集を実施いたしました。

社費収納額	1,411,730 円	(前年度 1,516,340 円)
-------	-------------	-------------------

※ 令和3年度収納額の内 195,720 円が埴町分区へ配分されました。

【3】共同募金運動

「じぶんの町を良くするしくみ」である赤い羽根共同募金運動への一層の理解と参加を促進するために、町民や企業に効果的な広報活動を促進し、地域福祉の促進に努めました。

■赤い羽根共同募金運動（運動期間：令和3年10月～令和4年3月）

		(前年度)
戸別募金	1,156,530 円	(970,140 円)
街頭募金	31,789 円	(53,746 円)
法人募金	572,200 円	(582,300 円)
学校募金	41,968 円	(47,888 円)
職域募金	102,038 円	(298,251 円)
個人募金	8,065 円	(9,796 円)
イベント募金	0 円	(0 円)
その他の募金	47,650 円	(39,759 円)
計	1,960,240 円	(2,001,880 円)

※ この内 1,235,240 円が令和4年度、一般募金配分金事業として使われます。

街頭募金活動 実施日時：令和3年10月30日(土)

午前10時30分～12時30分

実施場所：道の駅はなわ「天領の郷」

200円以上の募金をしてくださった方に、大ヒット映画「呪術廻戦」と赤い羽根共同募金がコラボしたクリアファイルを進呈しました。

街頭募金は2回目の試みでしたが、新型コロナウイルス感染症対策を徹底させるため、普段の募金活動よりも準備に時間はかかりましたが、多くの方に募金にご協力いただき、無事に実施することができました。

■歳末たすけあい募金運動（運動期間：令和3年10月～令和3年12月）

		(前年度)
戸別募金	710,150 円	(716,800 円)
個人募金	0 円	(2,118 円)
その他の募金	20,000 円	(20,700 円)
計	730,150 円	(739,618 円)

※ 全額、令和3年度歳末たすけあい配分事業として使われました。

【 4 】 関係福祉団体業務及び福祉団体事務局

■事務を担当する業務

社会福祉法により市町村ごとに分会がおかれている団体の業務を行いました。

福島県共同募金会 塙町共同募金委員会
日本赤十字社福島県支部 塙町分区

■事務局を担当する福祉団体

それぞれの使命を有して活動する福祉団体の事務局機能を担いながらその活動を通して地域福祉に関する課題を相互に共有し事業推進が図られるよう支援を行いました。

塙町民生児童委員協議会
塙町老人クラブ連合会
塙町赤十字奉仕団
塙町身体障がい者福祉会
塙町心身障がい児(者)親の会
塙町遺族会

5. 社会福祉協議会活動普及の取り組み

【1】広報活動

今年度経費 425,968 円
前年度経費 686,400 円

ホームページにより町内外の方に常に最新の情報が届くよう努めました。また、インスタグラムやツイッター、SNS 上でも事業を実施した様子などを掲載することで、インターネットを活用する若年層に向けても情報を発信することができました。

町内マスコミにも広告を掲載し、介護、福祉の相談の窓口として社協の存在をPRしました。

広報誌の発行	はなわ社協だより「こころ」全戸配布3回（5月、9月、2月）
広告掲載	町内マスコミ2社

【2】地域福祉充実のためのネットワークの構築

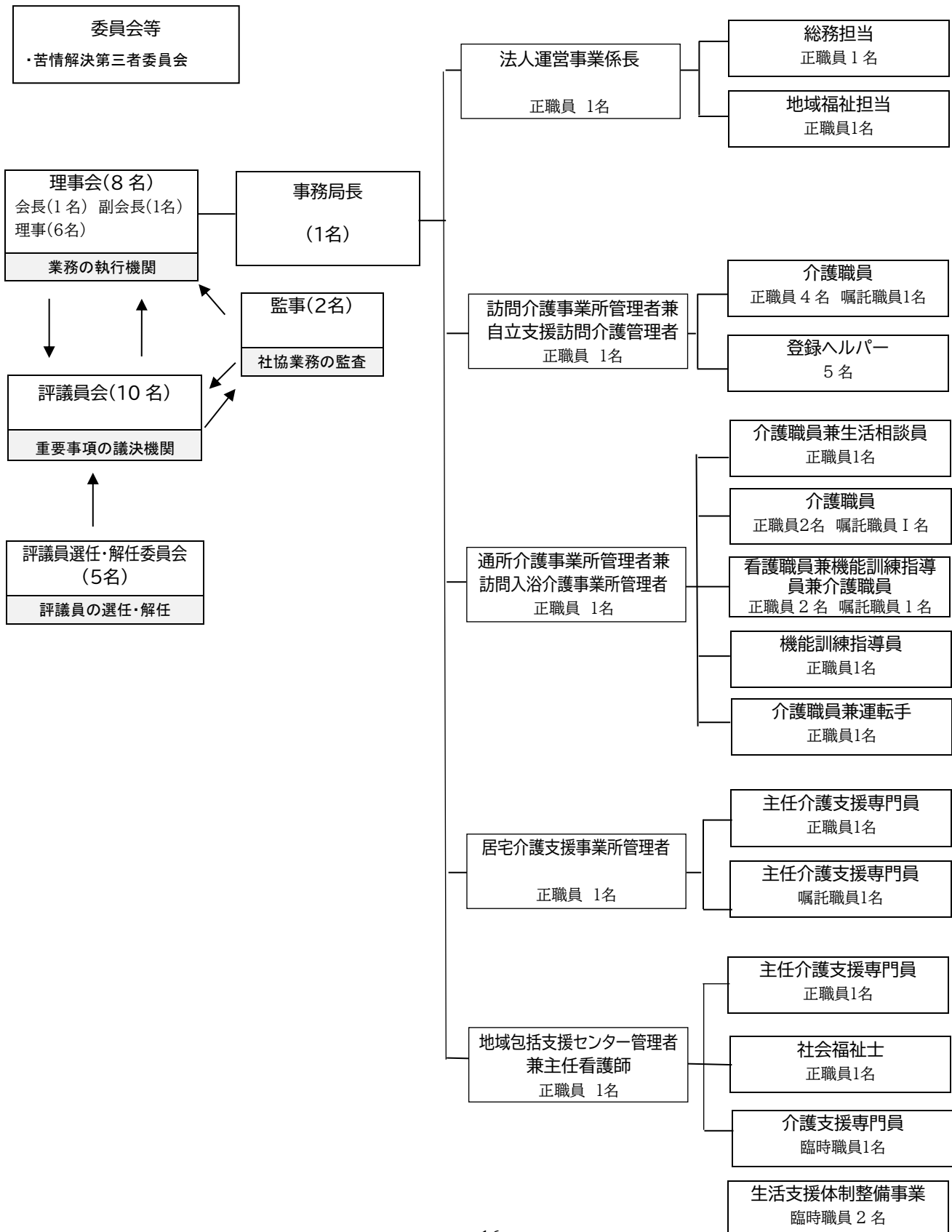
行政機関関連部署及び福祉関係機関・団体との密なる連携を図り、福祉ネットワークの整備に努めました。

6. 職員体制及び職員研修

【1】職員体制

組織図

社会福祉法人埴町社会福祉協議会組織図（令和4年3月31日現在）



【2】職場内職員研修

利用者を安全に送迎するため、年1回交通安全講習を行っています。

■交通安全研修の実施

日 時	令和3年6月9日(水) 午後5時30分～午後6時30分		
場 所	埴町デイサービスセンター	参加者	職員17名
内 容	交通安全、交通法令について及び体験型シミュレーション (講師: 榎倉警察署地域交通課 塩田周作氏)		

【3】役職員研修・専門研修

今年度経費 353,510円
前年度経費 112,400円

福島県社会福祉協議会、さまざまな団体等が実施する研修会や講習会当へ役員、職員を積極的に派遣し、他団体からの参加者との交流や情報交換等を通じて、地域福祉活動の推進に努めました。

令和3年度も新型コロナウイルス感染防止のため、引き続き集合型ではなくリモートによる研修会が多数行われ、移動することなく画面を通しての研修受講も多くありました。

- ① 福島県社会福祉大会 令和3年11月5日(金) 会場 相馬市民会館
※新型コロナウイルス感染防止のため、参加なし
※大会会長表彰 職員3名

② その他の研修会

(順不同)

日 時	内 容	場 所
5月28日(金)	令和3年度 市町村社会福祉協議会事務局長等研修	オンライン(ZOOM)
6月7日(月)～6月18日(金)の間	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 地域包括・在宅介護支援センター協議会 令和3年度職員研修(初任者)	動 画 配 信 (YouTube)
6月9日(水)	令和3年度 認知症キャラバン・メイト養成研修	福島県男女共生センター(二本松)
6月14日(月)	令和3年度 老人福祉施設職員研修 I	ウィル福島 アクティおろしまち
6月17日(木)	令和3年度 ピンポイント介護技術研修(移乗・移動介助編)	福島県男女共生センター(二本松)
6月22日(火)	70th IT 導入補助金 2021 オンラインセミナー	オンライン(ZOOM)
7月1日(木)	令和3年度 市町村社会福祉協議会連絡協議会全大会 及び市町村社会福祉協議会会長・事務局長等会議	オンライン(ZOOM)
7月5日(月)	令和3年度 新人向け OJT(プリSENター)先進事例研修	オンライン(ZOOM)
7月5日(月)	令和3年度 災害ボランティアセンター運営研修【基礎編】	オンライン(ZOOM)

日 時	内 容	場 所
7月5日(月)～7月20日(火)	令和3年度 要援護者による高齢者虐待対応基礎研修	オンデマンド形式(ZOOM)
7月5日(月)～7月30日(金)の間	令和3年度 生活支援コーディネーター養成研修【基礎編】	動画視聴
7月6日(火)	メンタルヘルス講習会[管理職向け]	オンライン(ZOOM)
7月6日(火)・7月7日(水)	令和3年度 災害ボランティアセンター運営研修【実践編】	福島県社会福祉協議会
7月16日(金)	令和3年度 ピンポイント介護技術研修(おむつ介助編)	福島県男女共生センター(二本松)
7月16日(金)	「災害福祉カンタンマップ」公開セミナー	オンライン
7月19日(月)	ボランティア担当者・生活支援体制整備事業担当者 オンライン情報交換会	オンライン(ZOOM)
7月20日(火)・7月21日(水)	令和3年度 市町村社会福祉協議会職員研修	福島県男女共生センター(二本松)
7月21日(水)	ほのぼのNEXT 合同操作説明会～LIFE 編～	オンライン
8月3日(火)	重層的支援体制整備事業の実施に向けた研修会	オンライン(ZOOM)
8月10日(火)	接遇講習会第2回[新人職員向け]	オンライン(ZOOM)
8月11日(水)～8月31日(火)の間	令和3年度 地域包括支援センター 職員基礎研修	オンデマンド形式(有料配信)
8月23日(月)	令和3年度 キャリアパス制度運用研修	オンライン(ZOOM)
8月24日(火)	第1回 地域包括ケアシステム総論的研修会	ホテル丸屋グランデ2階
8月24日(火)	～キャリアパス制度の構築から運用まで～	オンライン(ZOOM)
8月26日(木)	市町村社協介護サービス経営研究会 第1回オンラインサロン	ライブ配信(ZOOM)
9月10日(金)・9月22日(水)	令和3年度 生活支援コーディネーター養成研修【実践編】	オンライン(ZOOM)
9月16日(木)	令和3年度 福島県青年支援協議会県南地域連絡協議会	サンフレッシュ白河
9月24日(金)	令和3年度 訪問介護テーマ別技術向上研修Ⅱ	オンライン(ZOOM)
9月24日(金)	2021年度 ハラスメント防止講習会	オンライン
10月5日(火)	令和3年度 リスクマネジメント研修 ～福祉防災計画(BCP)の基本～	オンライン(ZOOM)
10月13日(水)・10月14日(木)	令和3年度 地域介護専門職員研修(相談援助面接研修)	オンライン(ZOOM)
10月26日(火)	令和3年度 社会福祉法人理事研修	福島県農業総合センター
10月26日(火)	2021年度 接遇講習会	オンライン(ZOOM)

日 時	内 容	場 所
10月28日(木)	令和3年度 法人向け採用力強化研修	オンライン(ZOOM)
11月9日(火)	2021年度 接遇講習会	オンライン
11月12日(金)~2週間程度	令和3年度 東北ブロック地域包括・在宅介護支援センター 職員研修会	後日オンデマンド 視聴
11月15日(月)	令和3年度 地域包括支援センター職員課題別研修	ライブ配信 (ZOOM)
11月29日(月)	令和3年度 福祉の職場におけるメンタルヘルス研修	オンライン(ZOOM)
第1回 11月18日(木) 第2回 11月25日(木) 第3回 12月2日(木) 第4回 12月9日(木) 第5回 12月16日(木)	実務者研修	郡山(西山ビル2F) 教室
12月14日(火)	認知症施策に関する市町村セミナー	オンライン(ZOOM)
1月18日(火)	介護事業者のための業務継続計画(BCP)作成セミナー	オンライン(ZOOM)
1月28日(金)	令和3年度 市町村等職員向けチームオレンジ研修	オンライン(ZOOM)
2月9日(水)	令和3年度 生活支援コーディネーター研究協議会	オンライン(ZOOM)

Ⅲ 経営部門

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症に関する研修会を行い、感染防止のための対策を十分に行いながら介護事業の運営に努めてまいりました。

また、引続き社会保険労務士に経営改善に関する支援をいただきながら、よりよい介護サービスに努めてまいりました。

1. 介護サービス事業（介護保険法）

介護を必要とする状態になっても安心して生活が送れるよう、介護を社会全体で支えることを目的として平成12年4月からスタートした介護保険制度、その要介護者と家族の安定した生活を支えるための介護サービスを提供する事業所の運営を行いました。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策を十分に取ながらの運営となりました。国からのコロナ対策支援金を活用し、対策に必要なマスク、消毒液の外、公益財団法人JKAの助成を受け、サーモカメラと空気清浄機3台を購入しました。

また、引き続き町のエール商品券を利用料の支払いに使用できるようにし、利用しやすい介護事業所に努めました。

【1】訪問介護事業所（ホームヘルプサービス）

	資金収支差額	経費
今年度	△3,300,250円	25,917,910円
前年度	13,792円	29,383,214円

前年度と比べ、介護保険収入は減少しました。新型コロナウイルス感染拡大による利用控えが増えたこと、また人材不足によるものが原因と考えられます。支出についても見直しを図り赤字を減らすことに努めました。

■訪問介護事業(ホームヘルプサービス)

訪問介護員(ホームヘルパー)が利用者(要介護者)宅を訪問し、オムツ交換、入浴介助、清拭等の身体介護や調理、清掃等の家事の援助を行います。

【利用者】

(実人数)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
介護	40	33	38	39	35	36	37	37	37	38	38	36	
総合※	14	14	13	13	13	13	13	13	15	13	13	13	
計	54	47	51	52	48	49	50	50	52	51	51	49	
合計	介護		444 (前年度 546)					一カ月平均		介護		37.0 (前年度 45.5)	
	総合		160 (前年度 178)							総合		13.3 (前年度 14.8)	
	計		604 (前年度 724)							計		50.3 (前年度 60.3)	

【訪問回数】

(回)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	401	385	373	382	365	371	350	359	352	349	345	367
総合※	77	70	69	73	72	62	63	68	69	49	54	59
計	478	455	442	455	437	433	413	427	421	398	399	426
合計	介護		4,399 (前年度 5,799)				一カ月平均		介護		366.5 (前年度 483.2)	
	総合		785 (前年度 965)						総合		65.4 (前年度 80.4)	
	計		5,184 (前年度 6,764)						計		432.0 (前年度 563.6)	

※総合とは、市町村が中心となって要支援者等の方に対する効果的かつ効率的な支援を行う「総合事業」のことです。

■福祉有償運送事業

介護保険、自立支援の認定を受けていて、交通手段に困る高齢者の病院等への車両による送迎を行っています。

【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
20	21	19	22	19	22	22	20	16	12	17	18
合計			228 (前年度 176)				1カ月平均		19.0 (前年度 14.6)		

【運行回数】

(回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
98	74	86	85	57	59	46	56	50	28	44	49
合計			732 (前年度 1,098)				1カ月平均		61.0 (前年度 91.5)		

■軽度生活援助事業(受託事業:埜町軽度生活援助事業実施要綱)

在宅で生活する高齢者を対象に、軽易な日常生活上の援助を実施します。具体的には、調理、掃除、買物及び相談・助言等が主な内容となります。

【利用者】

0 (前年度 0)

○人材確保

ホームヘルパー人材の増加に努めるべく、登録ヘルパー募集を継続して行いました。

【2】通所介護事業所（デイサービス）

	資金収支差額	経費
今年度	1,005,989 円	62,398,910 円
前年度	△16,427 円	66,987,520 円

今年度も引続き、新型コロナウイルス感染防止を徹底して行いながらのデイサービス運営となりました。

利用者がセンターを出た後の、使用したテーブル、椅子、歩行器、ロッカー等の消毒も引続き職員が毎日消毒しています。また、公益財団法人 JKA から助成を頂き、サーモカメラと空気清浄機3台を正面玄関とデイホールに設置いたしました。

また、町からの指定管理料については、デイサービスセンターの管理費用のほか、センターが事業開始してから20年以上が経過しているため、空調の清掃やフィルターの取り換えなど修繕費用にも充当しました。

引続き、季節を感じられる食事やおやつを提供に努め、利用者より好評を得ました。

■通所介護事業(デイサービス事業)

入浴、運動(機能訓練)を行う等のサービスを提供することで、より長く自宅で生活できるように支援します。利用者の気分転換や身体機能及び衛生面での維持を図り、家族のレスパイトケア※も目指しています。

※「レスパイトケア」とは介護が必要な高齢者等がいる家族へのさまざまな支援。家族が介護から開放される時間をつくり、心身疲労や共倒れ等を防止することが目的。多くデイサービスやショートステイ等のサービスを指す。

【利用者】

(実人数)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
介護	57	57	57	55	52	51	51	54	51	52	48	53	
総合※	28	27	28	27	28	28	27	29	30	29	29	30	
計	85	84	85	82	80	79	78	83	81	81	77	83	
合計	介護		638 (前年度 726)					一カ月平均		介護		53.1 (前年度 60.5)	
	総合		340 (前年度 350)							総合		28.3 (前年度 29.1)	
	計		978 (前年度 1,076)							計		81.5 (前年度 89.6)	

【利用日数】

(延べ回数)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
介護	423	395	417	378	405	405	425	399	389	349	357	430	
総合※	164	147	177	154	143	157	150	144	157	134	121	155	
計	587	542	594	552	548	562	575	543	546	483	478	585	
合計	介護		4,772 (前年度 4,887)					一カ月平均		介護		397.6 (前年度 407.2)	
	総合		1,803 (前年度 1,875)							総合		150.2 (前年度 156.2)	
	計		6,575 (前年度 6,762)							計		547.9 (前年度 563.5)	

※総合とは、市町村が中心となって要支援者等の方に対する効果的かつ効率的な支援を行う「総合事業」のことです。

【3】訪問入浴介護事業所

	資金収支差額	経費
今年度	300,207 円	5,534,473 円
前年度	1,467,568 円	7,528,420 円

中山間部のサービスの希薄な地域へのサービスの提供、医療依存度が高い利用者へのサービスの提供に努めました。

また今年度についても人件費の支出について見直し、収支のバランスを調えることで赤字を減らすことに努めました。また質の高いサービスを提供することに努めました。

■訪問入浴介護事業(入浴車)

移動入浴車で、浴槽を利用者宅に持ち込み入浴介助を行ないます。バイタルチェック等も行い、利用者の体調管理には十分な注意を払ったうえでサービスを提供しています。

【利用者】 (実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
7	6	6	4	3	5	5	5	5	5	5	6
合計			62 (前年度 101)				一カ月平均		5.1 (前年度 8.4)		

【利用回数】 (回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
26	18	24	13	15	20	19	24	21	22	23	23
合計			248 (前年度 375)				1カ月平均		20.6 (前年度 31.2)		

■障がい者訪問入浴サービス事業(町受託事業)

自宅で家族や介護者による入浴が困難な障がい者を対象とする、移動入浴車による訪問入浴サービスです。

【利用者】 (実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3	3	3	2	2	2	3	3	3	3	3	3
合計			33 (前年度 36)				一カ月平均		2.7 (前年度 3.0)		

【利用回数】 (回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
17	12	18	13	15	13	16	19	16	17	15	17
合計			188 (前年度 259)				1カ月平均		15.6 (前年度 21.5)		

【4】居宅介護支援事業所

	資金収支差額	経費
今年度	△1,741,404 円	19,509,474 円
前年度	259,386 円	18,481,634 円

利用者のサービス選択を重視した偏りのないサービス計画を作成し、利用者及び介護者や家族を支援することを実施しました。内容に応じた加算を確実に取るように努力し、売り上げの維持に努めました。

■居宅介護支援事業

介護サービス利用にあたり、介護支援専門員(ケアマネージャー)が、本人や家族の要望、生活の状況、利用できるサービスの上限等を勘案して「何を」目的として、「どのサービス」を「どれ位」使うか、「いつ」使うか、「どこのサービス」を使うかについて「介護サービス計画」を作成します。また、在宅生活向上のアドバイスも行っています。

【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
95	97	93	96	98	96	100	101	94	96	93	94	
合計		1,153 (前年度 1,212)					1カ月平均		96.0 (前年度 101.0)			

■訪問調査事業(町受託事業)

要介護者の心身の状況や日常の生活の状況等について聴き取り調査を行い、介護判定に必要な認定調査票の作成を行っています。

【対象者】 ※()は内数で他市町村分

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
6(1)	3	9	3	1	2	5	5	12	7	10	6	
合計		69(1) (前年度 58(0))					1カ月平均		5.7 (前年度 4.8)			

【5】地域包括支援センター（町受託事業）

今年度経費 24,664,612 円
前年度経費 19,587,624 円

地域包括支援センターは、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関です。具体的には、要介護認定申請の代行やケアプランの作成、受けられるサービスの紹介を行います。また、支援を必要としない人に対しては、自立した生活を続けることを目的とする地域サロンを行っています。

■総合相談支援

相談件数が非常に増加しています。また、相談を受けても介護となる人が増えています。

()内は前年度実績

内容	件数	内容	件数
介護保険サービスの利用に関すること	80(48)	住宅改修・福祉用具に関すること	15(12)
在宅での生活・在宅介護に関すること	165(105)	関係機関との連絡調整	150(43)
施設入所に関すること	29(14)	実態把握	108(96)
運転免許返納に関する相談	0(8)	新型コロナウイルス感染に関すること	53(33)
医療に関する相談	14(5)	計	614(364)

■介護予防支援事業

要支援1または2と認定された人は、介護予防に関するサービスを利用することができます。適切なサービスが利用できるよう、ケアプラン（介護予防サービス計画）作成や、サービス事業所との連絡・調整などを行っています。

【介護予防支援取扱件数】

(件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
包括	60	60	62	62	60	60	60	57	58	60	58	61
委託分	4	4	5	4	3	3	3	3	3	3	3	2
計	64	64	67	66	63	63	63	60	61	63	61	63
合計	包括		718 (前年度 697)					包括		59.8 (前年度 58.0)		
	委託分		40 (前年度 70)					委託分		3.3 (前年度 5.8)		
	計		758 (前年度 767)					計		63.1 (前年度 63.9)		

■介護予防・日常生活支援総合事業(総合事業)

要支援1または2と認定された人で、町が主体となって行う介護予防事業を総合事業(通所介護事業と訪問介護事業)として利用する人のケアプラン作成等の取扱件数を示しています。

【総合事業取扱件数】

(件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
包括	45	46	47	45	47	46	44	46	46	45	50	51
委託分	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0
計	46	47	47	46	48	47	45	47	47	46	51	51
合計	包括		558 (前年度 539)					包括		46.5 (前年度 44.9)		
	委託分		10 (前年度 16)					委託分		0.8 (前年度 1.3)		
	計		568 (前年度 555)					計		47.3 (前年度 46.2)		

■訪問調査事業(認定調査)

要介護認定者等の心身の状況や日常の生活の状況等について聴き取り調査を行い、介護判定に必要な認定調査票の作成を行っています。

【対象者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2	2	2	3	2	5	1	0	0	0	0	2
合計		19 (前年度 17)					1カ月平均		1.58 (前年度 1.5)		

■地域介護予防活動支援事業

毎年、地域住民が主体となって行うサロンを展開していますが、今年度は新型コロナウイルス感染予防対策を取りながら、様々な工夫をして感染予防をして開催をしました。

【介護予防支援取扱件数】

(件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
サロン	12	9	13	17	2	8	14	15	14	12	0	1
いきいき健康教室	1	1	2	1	1	3	1	1	1	1	0	1
介護予防教室	0	1	2	2	1	1	2	2	1	0	0	0
合計	サロン		117 (前年度 94)					サロン		9.7 (前年度 7.8)		
	いきいき健康教室		14 (前年度 7)					いきいき健康教室		1.1 (前年度 0.5)		
	介護予防教室		12 (前年度 12)					介護予防教室		1.0 (前年度 1.0)		

■地域ケア会議

ケアマネージャーや介護事業所及び医療機関関係者が参集した中で、要援護高齢者に対するより良い支援を検討します。また、関係機関の情報を共有することで地域のネットワークを構築し、適切な介護サービスの提供に努めています。

また、個別ケースの支援検討が緊急に必要な場合に個別ケア会議を行いました。

包括ケア推進会議	10回
個別ケア会議	3回
自立支援型 個別ケア会議	4回

■認知症サポーター養成講座

認知症を理解し、認知症の人やその家族を見守り応援するのが、認知症サポーターです。

地域の皆さんに認知症に対する理解を深めていただくため、要請に応じて認知症サポーター養成講座を開催しました。

養成講座	7回	延べ	78人参加
認知症カフェ	5回	延べ	72人参加

2. 障がい福祉サービス事業（障害者総合支援法）

障害者総合支援法に基づき、心身に障がいがある方や特定の疾患のある方が、地域のなかで自分らしく生活を続けていけるよう、介護サービスを提供する事業所の運営を行いました。

【1】自立支援訪問介護事業所

	資金収支差額	経費
今年度	△1,998,138 円	12,282,050 円
前年度	74,554 円	13,826,596 円

障がい者が自立した日常生活、社会生活を営むために必要な障害福祉サービスのうち、居宅介護(ホームヘルプ)サービスを提供しています。

令和3年度は、訪問介護事業と人件費の調整を図ることで支出が増加しましたが、利用回数の多い利用者の施設入所などで黒字を維持することができませんでした。

■訪問介護事業(ホームヘルプサービス)

訪問介護員(ホームヘルパー)が利用者宅を訪問して、オムツ交換、入浴介助及び清拭等の身体介護や買物、調理、洗濯及び掃除等の家事援助を行います。

【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
10	10	10	10	10	11	12	10	11	9	9	7	
合計		119 (前年度 115)					一カ月平均		9.9 (前年度 9.5)			

【利用回数】

(回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
127	89	88	92	105	94	117	102	109	86	68	92	
合計		1,169 (前年度 1,614)					1カ月平均		97.4 (前年度 134.5)			

■移動支援事業(受託事業:埜町地域生活支援事業)

単独で外出をすることが困難な障がい者や障がい児の外出の際に、ヘルパーが付き添い移動の支援を行うサービスです。

【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
合計		2 (前年度 1)					一カ月平均		0.16 (前年度 0.08)			

【利用回数】

(回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	
合計		5 (前年度 4)					1カ月平均		0.41 (前年度 0.3)			

■ 育児支援家庭訪問事業(受託事業:埜町育児支援家庭訪問事業)

養育支援の必要がある家庭を訪問し、育児指導や簡単な家事の援助、養育相談及び指導等を行います。

【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計			10 (前年度 13)				一カ月平均		0.83 (前年度 1.08)		

【利用回数】

(回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4	0	0	1	7	4	8	4	2	3	3	4
合計			40 (前年度 43)				1カ月平均		3.3 (前年度 3.5)		

■ 障害支援区分認定調査

障害福祉サービス給付申請者の心身の状態や生活動作の状況等について調査を行い、障害支援区分の判定に必要な認定調査票を作成します。

市町村からの要請に応じて調査を行います。

埜町分	2件	(前年度 2件)
他市町村分	1件	(前年度 2件)
合計	3件	(前年度 4件)

3. その他の特記事項

【1】新型コロナウイルス感染症対策関連

■感染症対策委員会の開催

- 令和4年1月24日(月) 第1回目の委員会を開催
- ・議題 感染症に関するBCPの作成について

■利用者、家族等へ感染対策の協力呼びかけ

- ・管理者会議で話し合い、感染症に対する対応について詳細を通知しました。
(通知回数 4回 7月、10月、1月、2月)

■公益財団法人 JKA(日本競輪オートレース財団)よりコロナ対策助成

- ・令和3年10月5日にデイサービスセンターにサーモカメラと空気清浄機3台を設置しました。設置にあたり、公益財団法人 JKA より522,000 円の助成を頂きました。

■小学校休業等に係る両立支援等助成金の活用

- ・国の標記助成金を活用し、新型コロナ感染拡大による小学校休業に伴い、仕事を休んだ職員の休業補償分について申請をし、助成金を頂きました。(助成金額 38,948 円/4 日分)